

令和2年度 設楽ダム関連発掘調査成果報告会

# 新設楽発見伝 7

## 配付資料

### 配付資料目次

|                         |                                                        |
|-------------------------|--------------------------------------------------------|
| 設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡 | ・・・・・・・・・・ 2                                           |
| 令和2年度 設楽ダム関連の発掘調査について   | 藤原 哲 ・・・・・・・・・・ 4<br>(愛知県県民文化局文化部 文化芸術課 文化財室)          |
| 胡桃窪遺跡の発掘調査              | 鈴木恵介・渡邊 峻 ・・・・・・・・・・ 6<br>(愛知県埋蔵文化財センター)               |
| 添沢遺跡の発掘調査               | 河嶋優輝 ・・・・・・・・・・ 12<br>(愛知県埋蔵文化財センター)                   |
| 下延坂遺跡の発掘調査              | 蔭山誠一 ・・・・・・・・・・ 14<br>(愛知県埋蔵文化財センター)                   |
| 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査        | 川添和暁・田中 良 ・・・・・・・・・・ 16<br>宮腰健司・河嶋優輝<br>(愛知県埋蔵文化財センター) |
| 年表                      | ・・・・・・・・・・ 32                                          |

動画配信によるオンライン開催

期間 令和2年3月6日（土）～31日（水）



進行・司会 尾崎綾亮  
(愛知県埋蔵文化財調査センター)

ご挨拶 伊奈和彦  
(愛知県埋蔵文化財調査センター)

主催  設楽町教育委員会

 国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所

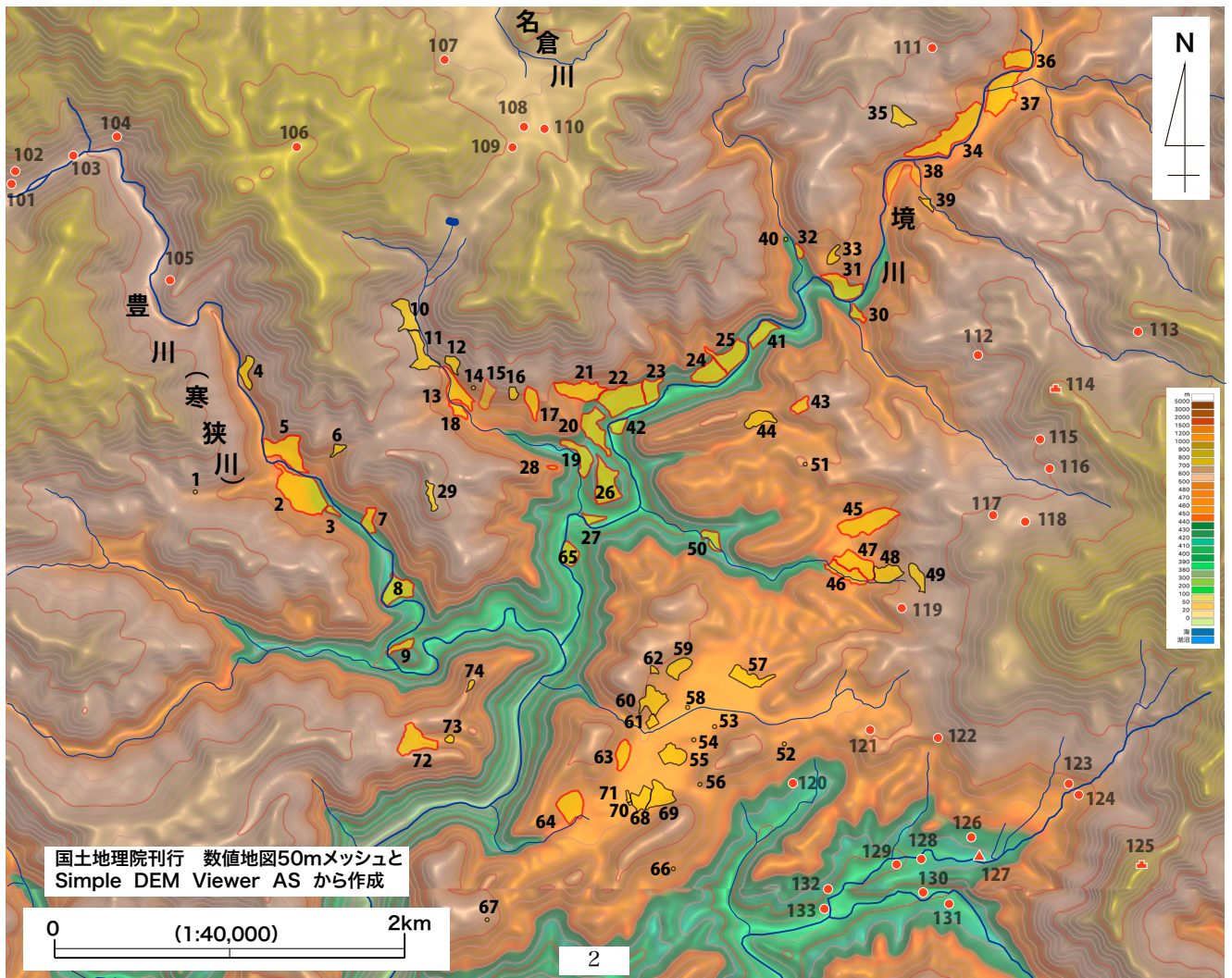
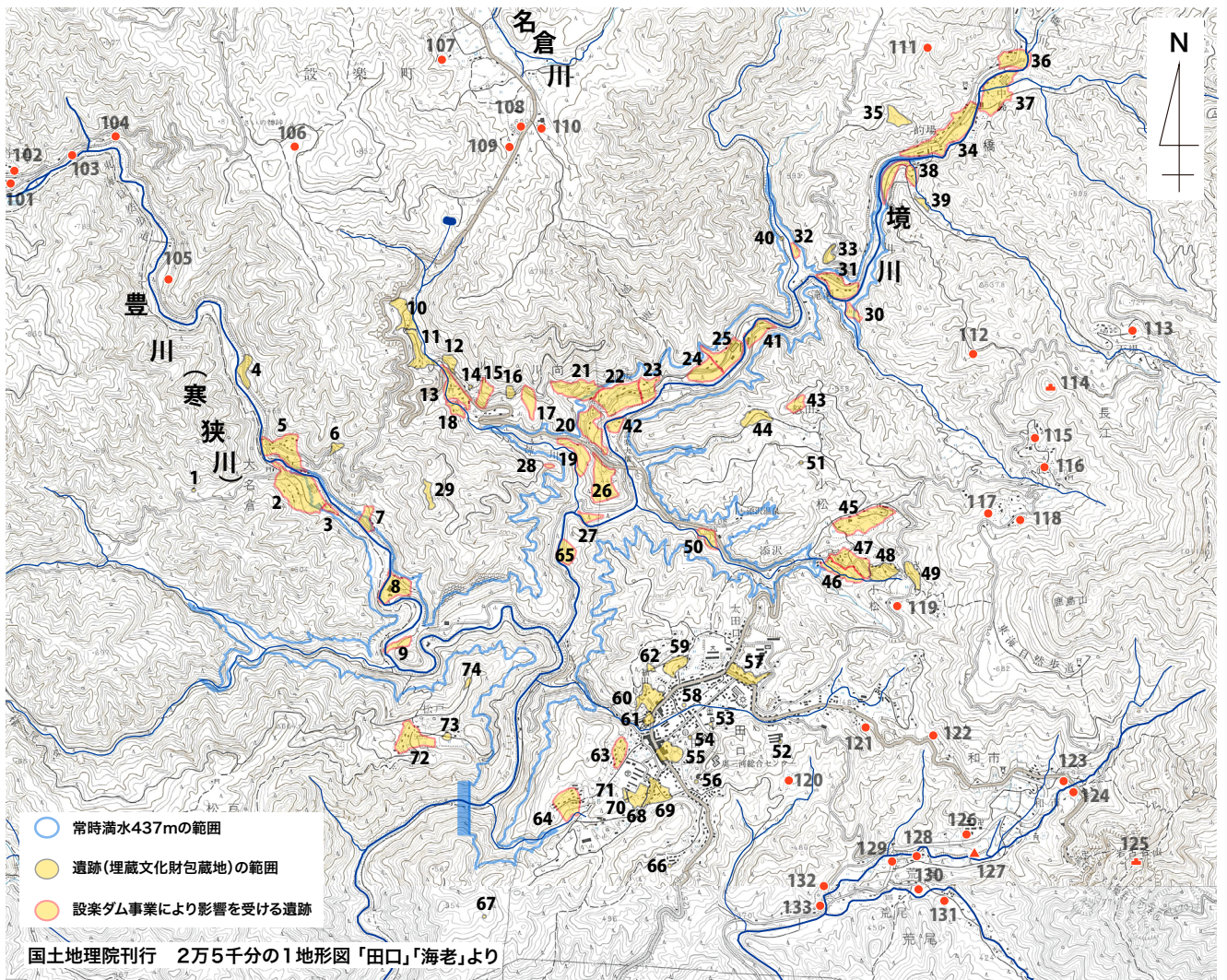
 (公財)愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

 愛知県県民文化局文化部 文化芸術課 文化財室

※令和元年度実施の石原遺跡および万瀬遺跡の調査概要は、『新設楽発見伝6』配付資料をご参照ください。



設楽ダム関連埋蔵文化財包蔵地（遺跡）と周辺遺跡の位置図（遺跡の番号は左表と一致）









# 令和2年度 <sup>した</sup>設<sup>た</sup>楽<sup>ら</sup>ダム<sup>だ</sup>関連<sup>かん</sup>の<sup>の</sup>発<sup>は</sup>掘<sup>くつ</sup>調査<sup>ちやうさ</sup>について

愛知県民文化局文化部 文化芸術課 文化財室 藤原 哲

## 1. はじめに

## 2. 令和2年度設楽ダム関連の発掘調査について

○令和2年度発掘調査遺跡一覧

| 2・3頁遺跡番号 | 遺 跡 名         | 発掘調査の種別 | 令和元年度調査面積 (㎡) |
|----------|---------------|---------|---------------|
| 41       | マサノ沢遺跡        | 本発掘調査A  | 100           |
| 50       | 添沢遺跡          | 本発掘調査A  | 14            |
| 8        | 胡桃窪遺跡         | 本発掘調査B  | 2,825         |
| 22       | 上ヲロウ遺跡・下ヲロウ遺跡 | 本発掘調査B  | 10,525        |
| 25       | 下延坂遺跡         | 本発掘調査B  | 3,130         |
| 50       | 添沢遺跡          | 本発掘調査B  | 1,755         |
| 合 計      |               |         | 18,349        |

## 3. 開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続きについて

### (1) <sup>うむかくにん</sup>有<sup>げんちとうさ</sup>無<sup>ず</sup>確認・<sup>いせきちず</sup>現地踏査

○遺跡地図、資料・文献等で確認した上で現地踏査を行い、地表面を観察することで遺物の散布状況を確認し、遺跡の有無及び現状を把握するための調査をします。

### (2) <sup>しくつ</sup>試掘・<sup>かくにん</sup>確認調査

○有無確認等で得た情報をもとに、地下の埋蔵文化財の状況を確認するため、必要な箇所を部分的に掘削する小規模な調査です。調査する場所が遺跡として周知されているか否かで、「試掘調査」と「確認調査」に区分されます。重機あるいは人力で掘削作業を行います。

【試掘調査】遺跡として台帳・地図に未記載で、周知もされていない場所について、「遺跡の有無」や「範囲・種類・残り具合」等を確認する調査です。

※遺跡がある場合、調査結果から、遺跡の取扱い(本発掘調査・工事立会・<sup>ほん はつくつちやうさ こうじたちあい</sup>慎重<sup>しんちやうこうじ</sup>工事)を決定します。

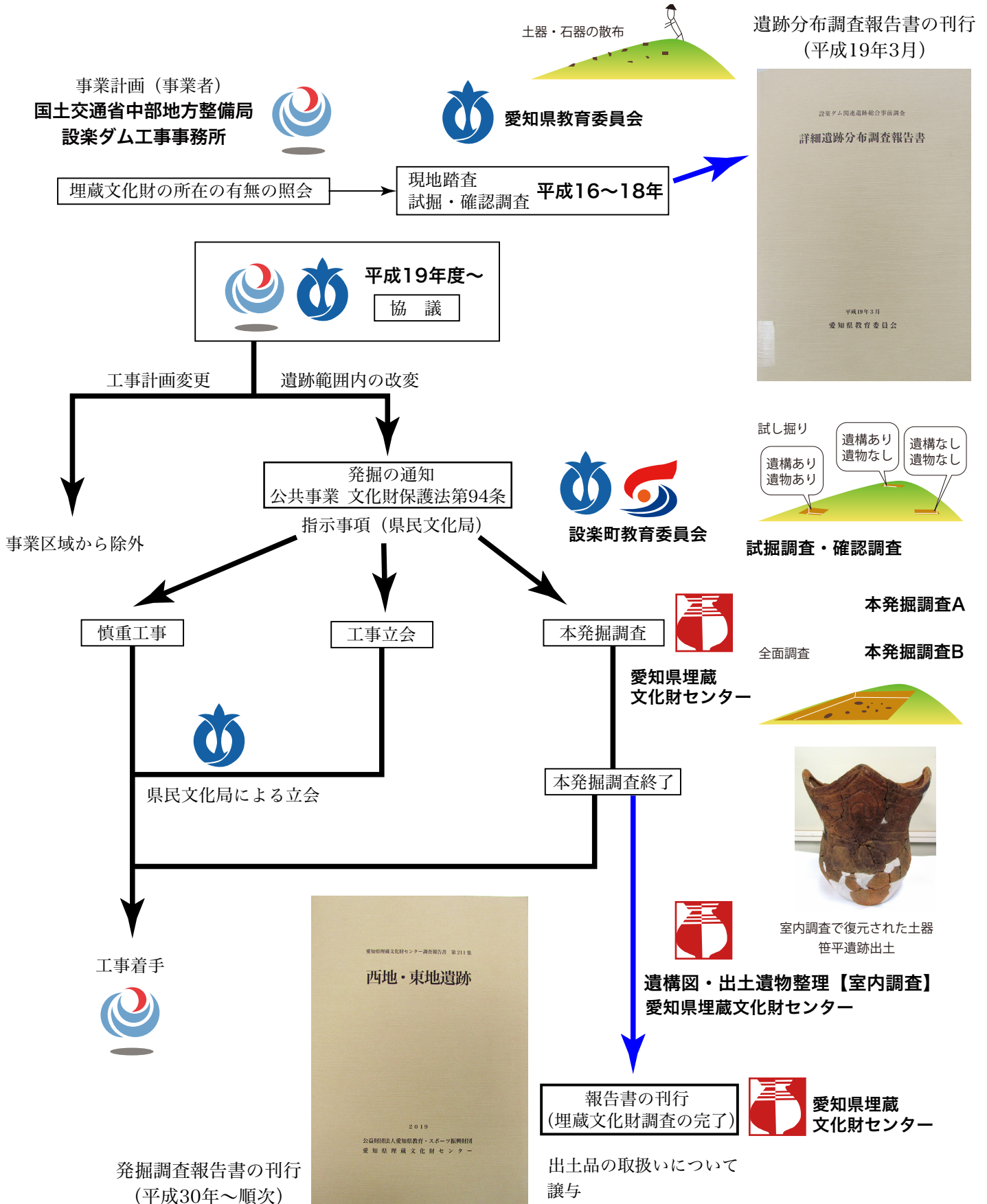
【確認調査】遺跡として既に記載され、周知されている場所について、「遺跡の範囲・種類・残り具合」等を確認する調査です。遺跡の取扱い(本発掘調査・工事立会・慎重工事)を決定します。

### (3) 本発掘調査

○公共事業によって滅失する遺跡の記録保存のために行う発掘調査です。調査対象地全面を発掘調査する「本発掘調査B」を基本とし、Bの実施前には、遺跡範囲・規模をさらに詳細に確認するために、事前調査「本発掘調査A」を行います。



## 開発事業と埋蔵文化財に関する諸手続について



開発事業と埋蔵文化財調査の流れ



## 胡桃窪遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 鈴木恵介・渡邊 峻

所在地：北設楽郡設楽町大名倉字胡桃窪・丸山（北緯35度6分13秒 東経137度33分10秒）

調査期間：令和2年5月～令和2年10月

調査面積：2,825m<sup>2</sup>

調査担当者：鈴木恵介・渡邊 峻

## 立地と環境

胡桃窪遺跡は豊川（<sup>とよがわ</sup>寒狭川<sup>かんさがわ</sup>）の左岸、設楽町大名倉字胡桃窪・丸山に所在します。この場所では、豊川の蛇行により左岸側（北側）に広い河川敷が形成され、北側にはそれに続く緩斜面<sup>かんしゃめん</sup>が広がります。調査は、東西にはしる愛知県道33号を境に、斜面の南側を20A区、北側を20B区とそれぞれ設定して行いました。

## 調査の成果

南側の20A区では土坑<sup>どこう</sup>数基や石器<sup>せっき</sup>数点が出土しましたが、残念ながら特筆すべき遺構や遺物は確認されませんでした。

一方の20B区は後世の造成により4段に別れており、削平された部分では遺構や遺物は確認されませんでした。上から2段目と3段目の斜面部東側では、縄文時代<sup>じょうもん</sup>や平安時代の<sup>へいあん</sup>竪穴が5基と、それぞれの時代の遺物が確認されました。

2段目の平安時代中頃の<sup>たてあな</sup>竪穴状遺構<sup>じょういこう</sup>（100SI）では、灰釉陶器<sup>かいゆうとうき</sup>の<sup>わん</sup>椀・<sup>さら</sup>皿、棒状の鉄片、<sup>ろあと</sup>炉跡<sup>しょうど</sup>、焼土、炭化物が出土しました。床面を斜面から水平に切り出し、細い柱を建物の周囲に巡らせて屋根をかけた構造です。金属製の道具を修理したりする作業場だったようです。

縄文時代前期後半の竪穴建物跡（111SI）は、柱穴を建物の周囲に巡らせる構造で、中央で<sup>じしやうろ</sup>地床炉跡<sup>ひも</sup>が見つかりました。竪穴内から出土した土器は粘土紐<sup>ひも</sup>を貼り付けた装飾が施されており、特徴的です。また、設楽ダム関連の発掘調査では、111SIが初めての縄文時代前期の竪穴建物跡となります。

2棟の縄文時代中期後半の竪穴建物跡（300SI・399SI）は当初、一つの竪穴建物跡と思われていましたが、同じ床面から、二つの石囲炉（3001SL・3002SL）が検出され、よく似た柱穴列が2列あることから、同じ場所に似た竪穴建物を2回建てていたことがわかりました。

3段目の平安中期の竪穴状遺構（302SI）は、残念ながら遺物は確認できませんでしたが、100SIの遺構埋土と類似していることから、100SIと同じく、平安時代中期の竪穴状遺構と推測されます。（渡邊 峻）



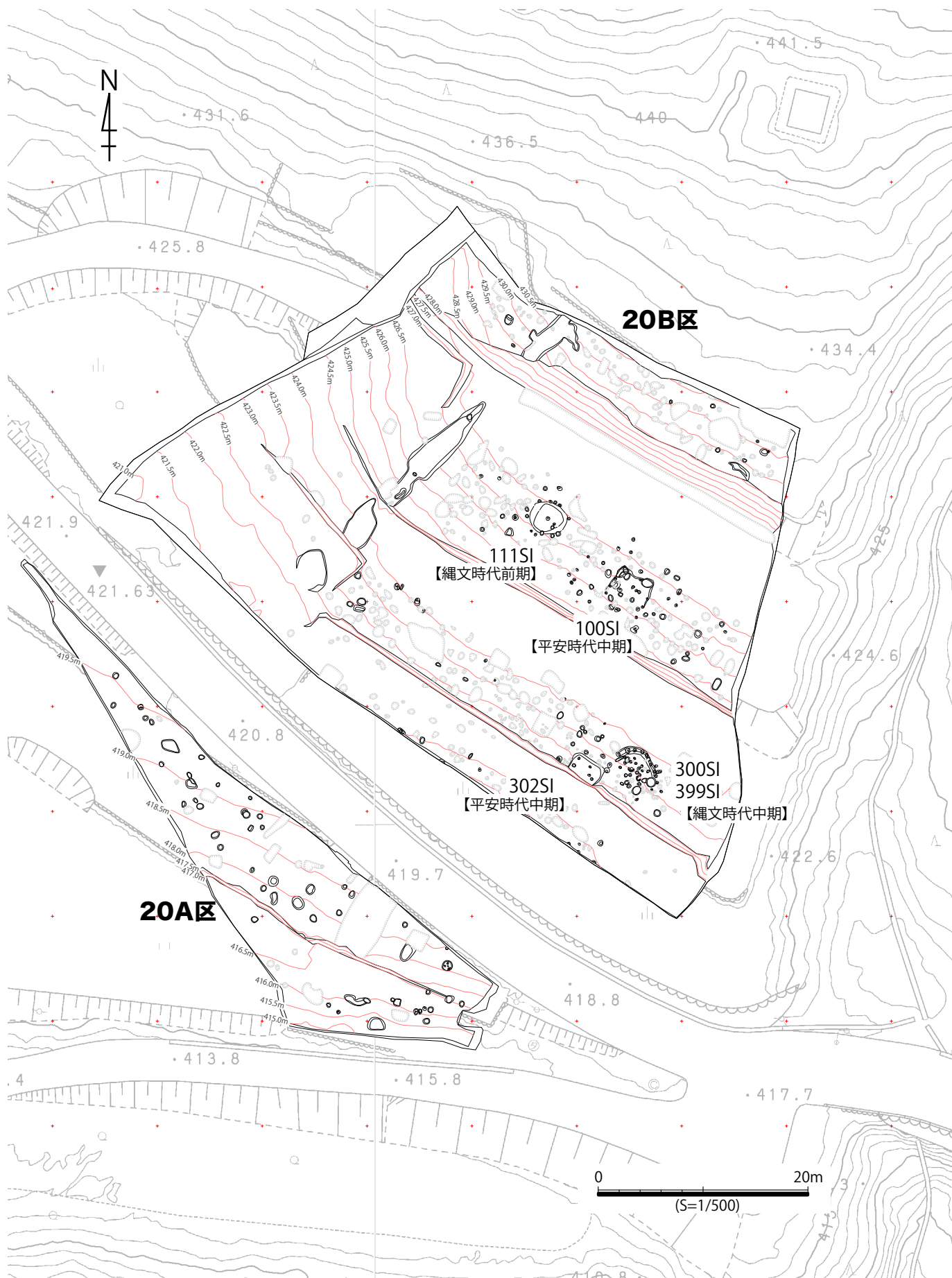


胡桃窪遺跡全景（西より）



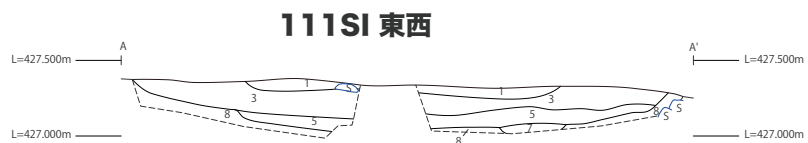
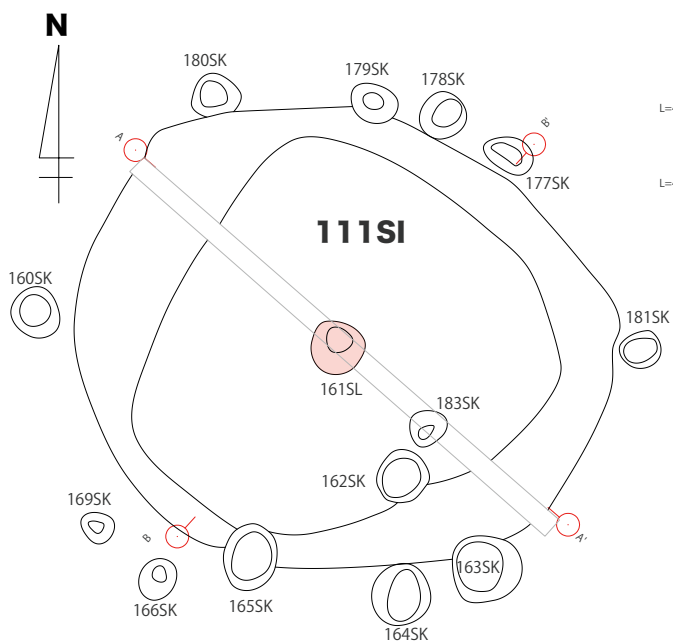
胡桃窪遺跡 20B 区全景（西より）



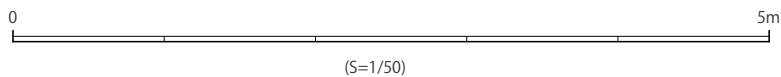


胡桃窪遺跡 調査区全体図





1. 10YR2~3/3 黒褐色シルト層 中礫の垂角礫を含む。炭化物を含む。
2. 10YR2/2 黒褐色シルト層
3. 10YR2/2 黒褐色シルト層 黄褐色シルト小ブロックを少量含む。中礫の垂角礫を多く含む。炭化物を含む。1よりやや粘性強い。
4. 10YR2/2 黒褐色シルト層 黄褐色シルト小ブロックを多く含む。
5. 10YR3/2 黒褐色シルト層 黄褐色シルト小ブロックを多く含む。炭化物を含む。
6. 10YR2/2 黒褐色シルト層 黄褐色シルト小ブロックを含む。
7. 10YR3/3 暗褐色シルト層 黄褐色シルト小ブロックを少量含む。炭化物を含む。
8. 10YR5/6 黄褐色シルト層 中礫の垂角礫を含む。地山。



111SI (南東より)



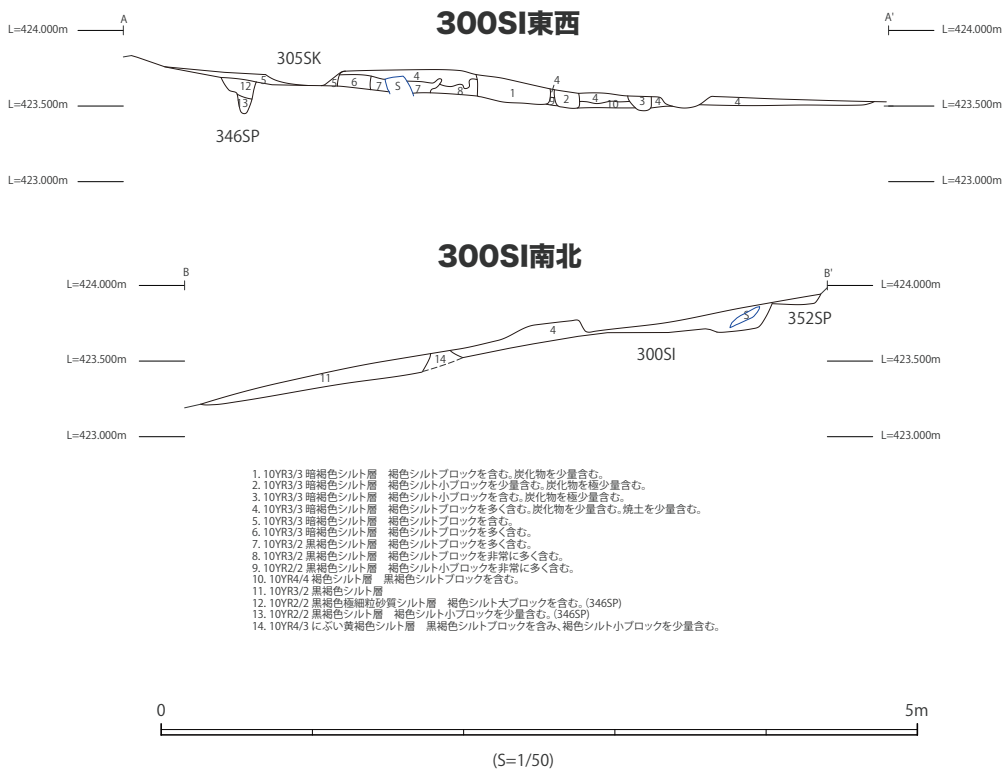
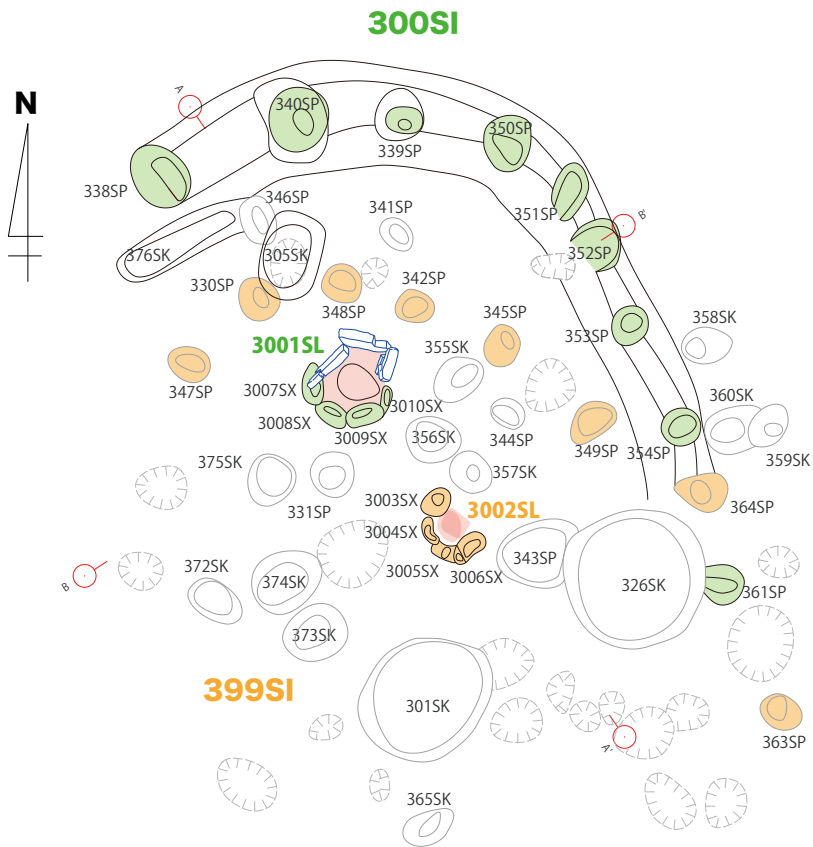
土器出土状況(南西より)



土器・台石出土状況(南西より)

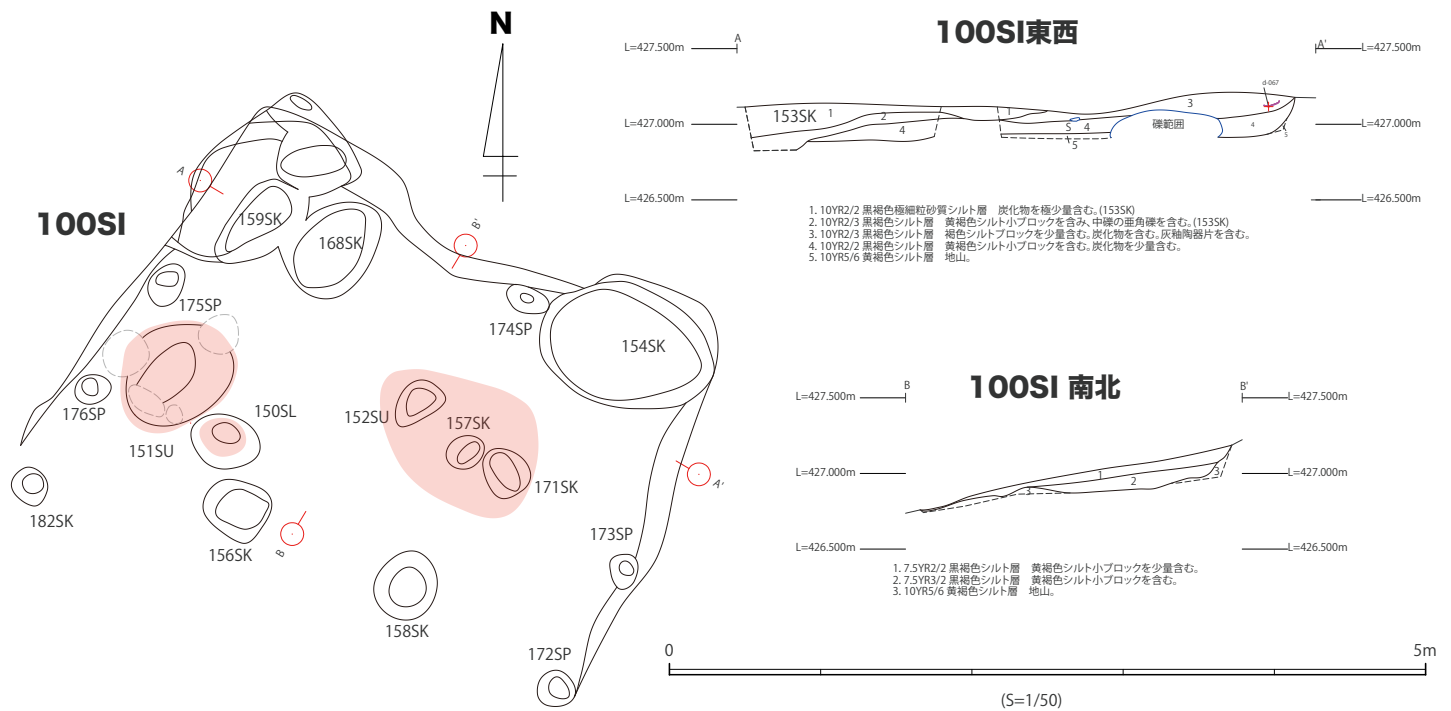
竪穴建物跡 111SI【縄文時代前期後半】





竪穴建物跡 300SI・399SI【縄文時代中期後半】





焼土検出状況(南東より)



100SI (南東より)



灰釉陶器出土状況(南東より)



灰釉陶器出土状況(南より)

竪穴状遺構 100SI【平安時代中期】



そえざわ

## 添沢遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 河嶋優輝

所在地：北設楽郡設楽町田口字添沢（北緯35度 6分22秒 東経137度34分23秒）

調査期間：令和2年6月～令和2年10月

調査面積：1,769㎡【このうち本調査Aは14㎡、本調査Bは1,755㎡】

調査担当者：河嶋優輝・宮腰健司

### 立地と環境

添沢遺跡は、設楽町役場のある田口地区の中心地から設楽大橋へ下る国道257号の南側、小松川北岸の河岸段丘<sup>かがんだんきゅう</sup>上に、他の遺跡とは少し離れて位置します。かつては水田として利用されていた場所で、標高は400～408mです。

### 調査の成果

今年度の調査では、本発掘調査A（トレンチ調査）と本発掘調査B（全面調査）を実施しました。

20A、20B区に分けて実施した本発掘調査Bの結果、深いところでは2m以上も地面を削って、水田として利用するための平坦面を造成していたことが判明しました。このため、遺物包含層は大部分が削平<sup>さくへい</sup>され、その影響か建物などの跡も見つかりませんでした。20A区で見つかった自然の谷地形など、低地であった場所の一部では遺物包含層が残っていました。

遺物は、縄文時代早期<sup>じょうもんじだいそうき</sup>（11,000年前～7,000年前）の押型文土器や繊維土器、<sup>おしがたもん</sup> <sup>せんい</sup> <sup>はくへん</sup> <sup>さつき</sup> <sup>すりいし</sup> <sup>たたきいし</sup> <sup>ませい</sup> <sup>せきふ</sup> 剥片、削器、磨石・敲石、磨製石斧などの石器、鎌倉時代の東海地方によく見られる山茶碗<sup>やまぢやわん</sup>や中国産の青磁<sup>せいじ</sup>などが出土しています。また、20A区の谷地形から、<sup>ふいごはぐち</sup> <sup>てつさい</sup> 轆羽口、鉄滓など、鉄鍛冶<sup>てつぞく</sup>に関連する遺物や、鉄鏃<sup>てつぞく</sup>（鉄の矢尻）と見られる鉄製品が出土していることも注目されます。

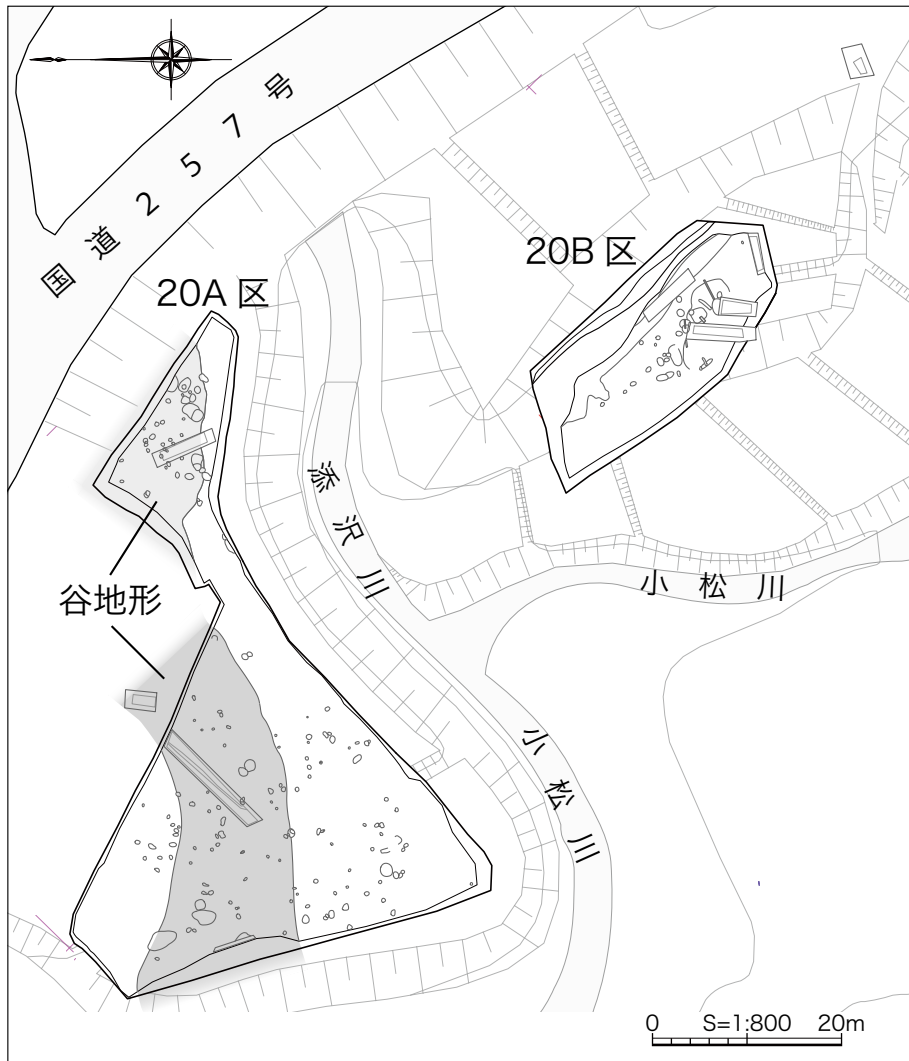


添沢遺跡遠景（北西から）



20A区谷地形掘削の様子





添沢遺跡 今年度調査区全体図



鉄器(鉄鏃か)  
(鎌倉時代か)  
右はX線写真



押型文土器(縄文時代早期)



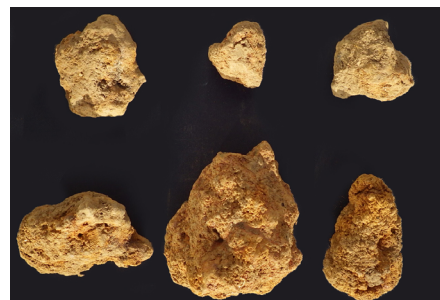
削器(縄文時代)



磨製石斧(縄文時代)



山茶碗 小皿(鎌倉時代)



鉄滓(鎌倉時代か)



しものべさか

## 下延坂遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 蔭山誠一

所在地：北設楽郡設楽町川向下延坂・上延坂地内

調査期間：令和2年6月～令和2年11月

調査面積：3,130㎡

調査担当者：堀木真美子・蔭山誠一

### 立地と環境

しものべさか かがんだんきゅう  
下延坂遺跡は境川右岸の河岸段丘上から山麓の丘陵斜面に立地する遺跡で、本年度の調査区は町道 79 号川向境川線の山側にあり、北東側を 20A 区、南西側を 20B 区として調査を行いました

### 調査の成果

いこう じょうもんじだいばんき やよいじだいぜんき  
確認できた遺構と出土遺物には、縄文時代晩期～弥生時代前期（約 3,000 ～ 2,500 年前）、やよいじだいちゅうきこうよう かまくらじだい むろまちじだい  
弥生時代中期後葉（約 2,000 年前）、鎌倉時代～室町時代（約 700 ～ 500 年前）の大きく 3 時期のものがああります。

たてあなじょういこう  
縄文時代晩期から弥生時代前期には、竪穴状遺構 9 基、平面円形から楕円形のどこう  
土坑 123 基を確認しました。竪穴状遺構は、長軸 3 m 前後、短軸 2 m 前後の平面隅丸台形から楕円形をしており、遺構の縁がやや溝状に深くなっていました。出土遺物にはじょうもんどき じょうこんもんどき だせいせきふ いしさじ はくへん  
縄文土器（条痕文土器）、打製石斧、石匙、剥片などがありました。

やよいどき くしじょうこんちようせいふかばち  
弥生時代中期後葉の遺構は、20B 区西側に土坑 179SK を確認しました。この土坑の中からは、弥生土器の櫛条痕調整深鉢が出土しました。

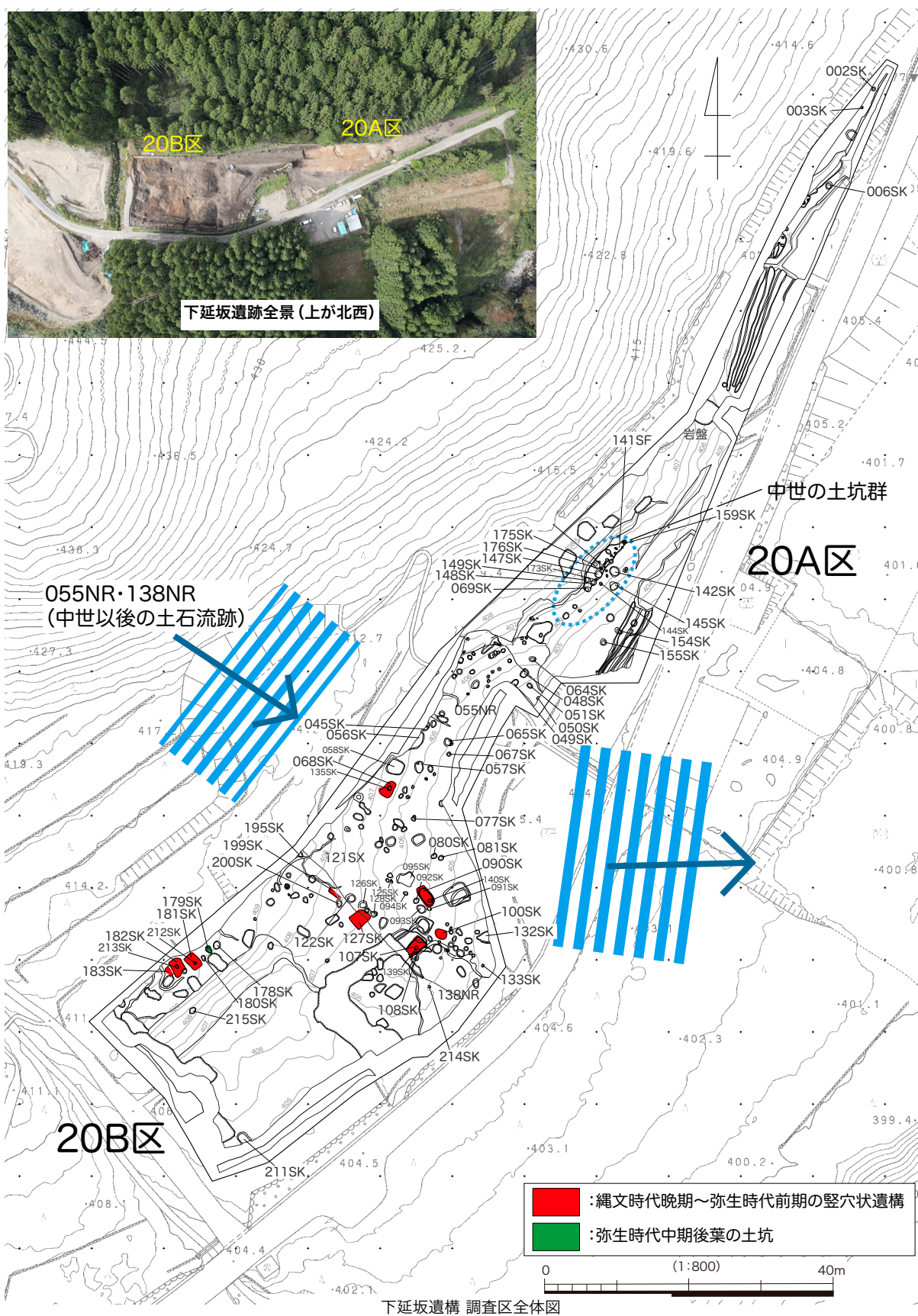
はじき いせがたなべ はねつきなべ てつせいひん  
鎌倉時代～室町時代の遺構は、20A 区中央部に土坑 29 基を確認しました。これらの土坑は山の斜面を棚状に削り出した平坦面に 2 ～ 3 列の列状に並んで見つかりました。その平面形は円形から楕円形で、大きさは径 20 ～ 140cm まで大小のものがあり、土師器の伊勢型鍋や羽付鍋、鉄製品が出土する土坑がありました。

今回の調査で確認された遺構と遺物は集落跡の一部分とはいえ、設楽地域の歴史を考える上で貴重な成果となりました。



20B区179SK 弥生土器出土状況 詳細









20A区北端部(北東より)



20A区002SK断面及び遺物出土状況(東より)



20A区006SK条痕文土器出土状況(北より)



20A区中央部にある中世の土坑群(南西より)



20A区159SK羽付鍋出土状況(南西より)



20A区145SK鉄製品出土状況(南より)



20A区121SX石匙出土状況(東より)



20A区122SK打製石斧出土(北東より)





20A区077SK断面・剥片出土状況(東より)



20A区南端部(北東より)



20A区107SK作業風景(北より)



20A区107SK(北より)



20A区090SK(北より)



20B区全景(南より)



20B区179SK弥生土器出土状況 全体(北東より)



写真奥より20B区181SK~183SK(南西より)



# 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の発掘調査

愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁・田中 良・宮腰健司・河嶋優輝

所在地：北設楽郡設楽町川向字上ヲロウ・下ヲロウ・中空

調査期間：令和2年6月～令和3年1月

調査面積：10,525㎡

調査担当者：川添和暁・田中 良・堀木真美子・河嶋優輝・鈴木恵介・宮腰健司・渡邊 峻

## 立地と環境

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡は、境川北岸の緩斜面上に立地しています。当地には、斜面上方北側から幾筋もの沢があり、地盤は度重なる扇状地形（土石流堆積）によってできています。調査は、県道や沢を境に、20A区・20B区・20C区の、三調査区に分けて実施しました。標高は、20A区・20B区で380～400m、20C区で400～410mです。

## 調査の成果

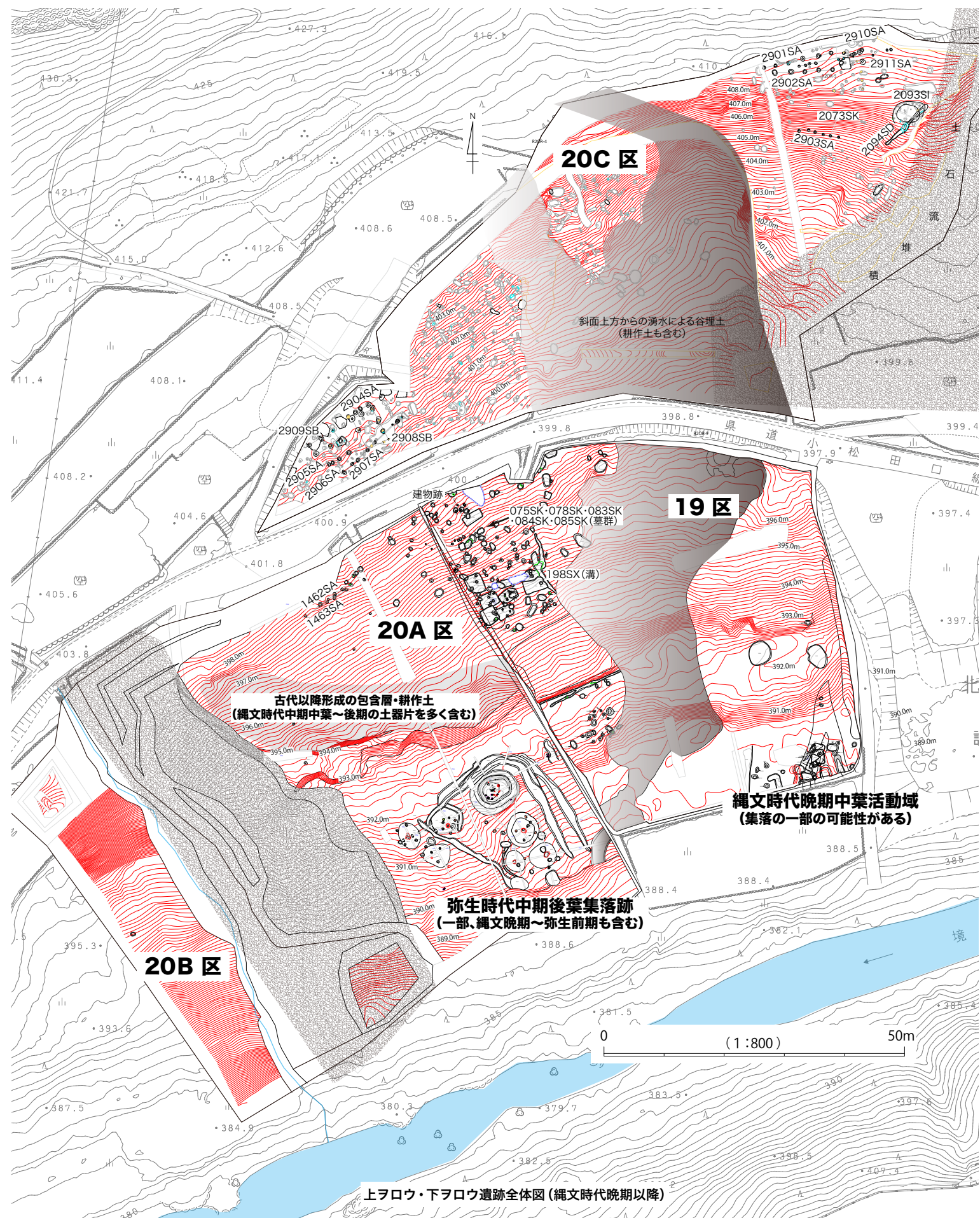
基本層序は、概ね上から、第1層：表土および近代以降の盛土・耕作土、第2層：古代から近世の包含層および耕作土（灰褐色および黒褐色あるいは黒色シルトもしくは粘土層）、第3層：縄文時代中期～弥生時代中期の遺物包含層（黒色粘土層および褐色粘土層）、第4層：無遺物層（明黄褐色粘土および礫層・黒色の強い粘土層・灰白色の砂層）、です。第4層は縄文時代前期以前に形成された堆積層で、これより以下からは遺構・遺物は見つかりませんでした。本遺跡では、この第4層が堆積しそして地盤が安定してから、ヒトの活動が活発になったようです。

今年度の調査で確認された遺構・遺物をまとめますと、下表のようになります。

| 時代・時期          | 確認調査区                | 検出遺構                                     | 出土遺物                                                                    | 備考                                                       |
|----------------|----------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| 縄文時代中期中葉       | 20A区                 | 竪穴建物跡1                                   | 土器・石器                                                                   | 当地での集落形成の始まり。                                            |
| 縄文時代中期後半～後期前葉  | 20A区                 | 竪穴建物跡・配石集石遺構・大型土坑（土坑墓主体か）、土器埋設遺構         | 土器・石鏃・礫器・剥片石核類・磨製石斧・石錘・磨石・磨石類・石皿・石臼類                                    | 竪穴住居と埋葬遺構群、配石集石遺構による集落形成。                                |
| 縄文時代後期前葉～中葉    | 20C区                 | 竪穴建物跡2以上、大型土坑（貯蔵穴）、柱列                    | 土器・石鏃・打製石斧・礫器・剥片石核類・磨製石斧・磨石・磨石類・石皿・石臼類                                  | 竪穴建物と貯蔵穴群による集落形成。                                        |
| 縄文時代後期末～弥生時代前期 | 20A区<br>20C区         | 竪穴建物跡、土器棺墓を含む土器埋設遺構3以上、磨製石斧埋納土坑          | 土器・石鏃・打製石斧・礫器・剥片石核類・磨製石斧・石冠・岩偶岩版類・石棒石刀類                                 | 黒色土中での遺構・包含層形成（集落跡）。                                     |
| 弥生時代中期後葉       | 20A区                 | 竪穴建物跡5、溝、自然流路                            | 土器（甕・深鉢・壺）、石器（有茎鏃・紡錘車）、管玉、                                              | 土石流堆積による集落の保存。竪穴建物の周堤を確認。                                |
| 古代および中世～近世以降   | 20A区<br>20B区<br>20C区 | 竪穴状遺構1、掘立柱建物跡2、ピット列、その他土坑、ピット、谷地形内での遺物堆積 | 陶器（須恵器・灰釉陶器・山茶碗・摺鉢・天目茶碗・その他近世陶器）、土師甕・鍋（伊勢型・内耳）、砥石、銅銭（祥符通宝・洪武通宝・永樂通宝）・鉄滓 | 20A区北端と20C区で活動痕跡明瞭。20A区北半は、縄文時代の土器を多量に含む古代以降の耕作土が広く展開する。 |

それではここからは、古代以降、弥生時代中期後葉、そして縄文時代の順にご説明いたします。（川添和暁）







## 古代以降（19 頁全体図）

20 A 区の北半分および 20 C 区全体で見つっています。耕作土が広く展開していたものの、それ以外の活動痕跡としては、以下のものがありました。

### ○平安時代

20C 区北東端では、<sup>たてあな</sup>竪穴建物跡 2093SI・2597SI・2603SI が見つかりました。上層から下層に向かって、対辺間約 4.7m で隅丸方形の 2093SI、長軸約 3.7m、短軸約 2.9m で楕円形の 2597SI、長軸 5.8cm 以上で楕円形の 2603SI の順に重複しています。柱穴は遺構外縁部に並ぶ<sup>がいえんぶ</sup>壁柱列<sup>へきちゅうれつ</sup>が主体であったようです。床面からは 9 世紀代後半～10 世紀代前半の<sup>かいゆうとうき</sup>灰釉陶器が複数点出土しています。

また、谷地形に沿うように幅 40～70cm の<sup>みぞ</sup>溝状遺構 2094SD がみつかりました。2597SI の利用開始と同時か、存続期間中に掘り込まれていたようです。2597SI 床面からの深さは 80cm 程度です。何らかの<sup>すいりしせつ</sup>水利施設であるかもしれません。

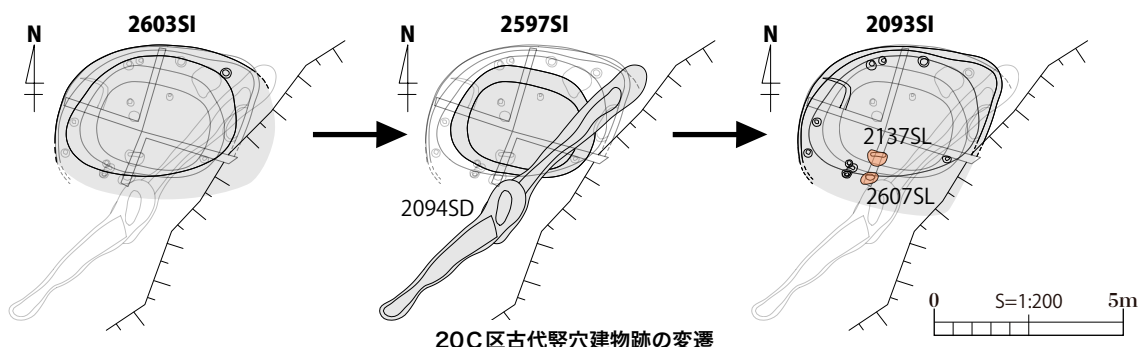
### ○中世・近世

20 A 区や 20 C 区の東端と西端で、<sup>さくれつ</sup>柵列<sup>ほったて</sup>や掘立柱建物跡などが見つかりました。

20 A 区東端の 2901SA、2902SA は、柱穴 5 基が直線上に並ぶ遺構で、両者は軸方向が若干異なっています。2902SA で確認された柱痕跡の直径は最大で 35cm 程度でした。山からの斜面の中に作られた細長い平坦面上にあり、<sup>どど</sup>土留めの柵などの跡と思われます。<sup>きんせいとうき</sup>近世陶器や<sup>ないじなべ</sup>内耳鍋が出土することから、近世の遺構と考えられます。

6 基の小土坑が連なる 2903SA の各遺構では明瞭な柱痕跡は見られなかったもののこれも柵列であったと推定されます。その一つの小土坑 2073SK からは、<sup>しょうふげんぼう</sup>祥符元宝、<sup>こうぶつほう</sup>洪武通宝、<sup>えいらくつうほう</sup>永楽通宝などの<sup>どうせん</sup>銅銭が複数枚出土しました。

20 C 区西端部から 20A 区北東端では、土坑のほか、柱穴列 1462SA、1463SA、2904SA、2905SA、2906SA、2907SA、<sup>ほったて</sup>掘立柱建物 2908SB、2909SB が見つかりました。2908SB では、柱穴のうち 3 基で板石が出土し、柱の支えとして設置されたようです。一方、1462SA、1463SA、2904SA、2905SA、2909SB では軸方向が一致していますが、2908SB とは軸線が若干異なります。さらにこれらと軸線の近い 2906SA、2907SA は、2908SB と重複しているのです。このように、西端部の遺構は 2908SB とそれ以外の 2 時期に分けられ、前者は後者の<sup>はいぜつ</sup>廃絶後に建設されたようです。遺構内からは、内耳鍋、<sup>すりばち</sup>搗鉢などが出土しました。（河嶋優輝）





## 弥生時代中期後葉（22 頁詳細図）

今回検出された弥生時代中期後葉の集落跡は、<sup>やよい</sup> 堅穴建物跡<sup>ちゅうきこうよう しゅうらく</sup>を囲うように山側から川側へ<sup>みぞ</sup>溝（1100SD・1110SD・1075SD）が掘られていました。これらの溝は、山側から流れてくる水を集落の外へのがす役割があったと考えられます。3 条が同時に機能していたわけではなく、常時 1 条の溝が機能していたと考えられます。

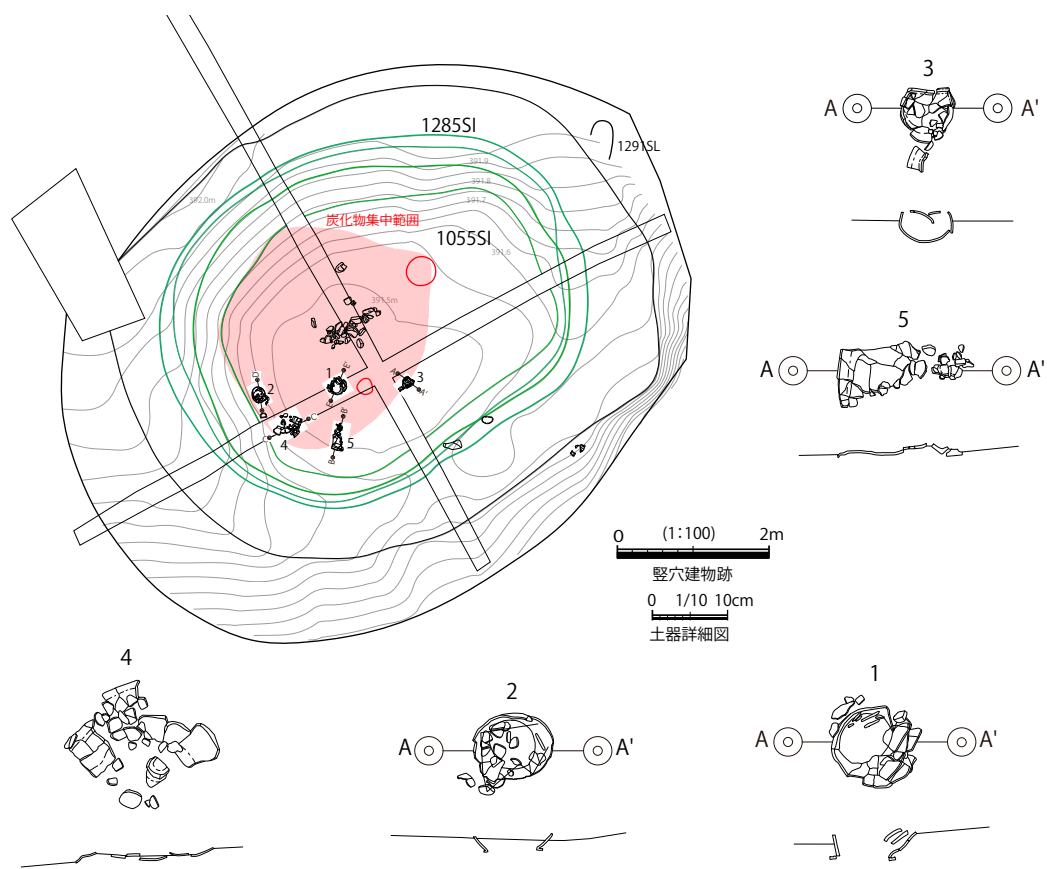
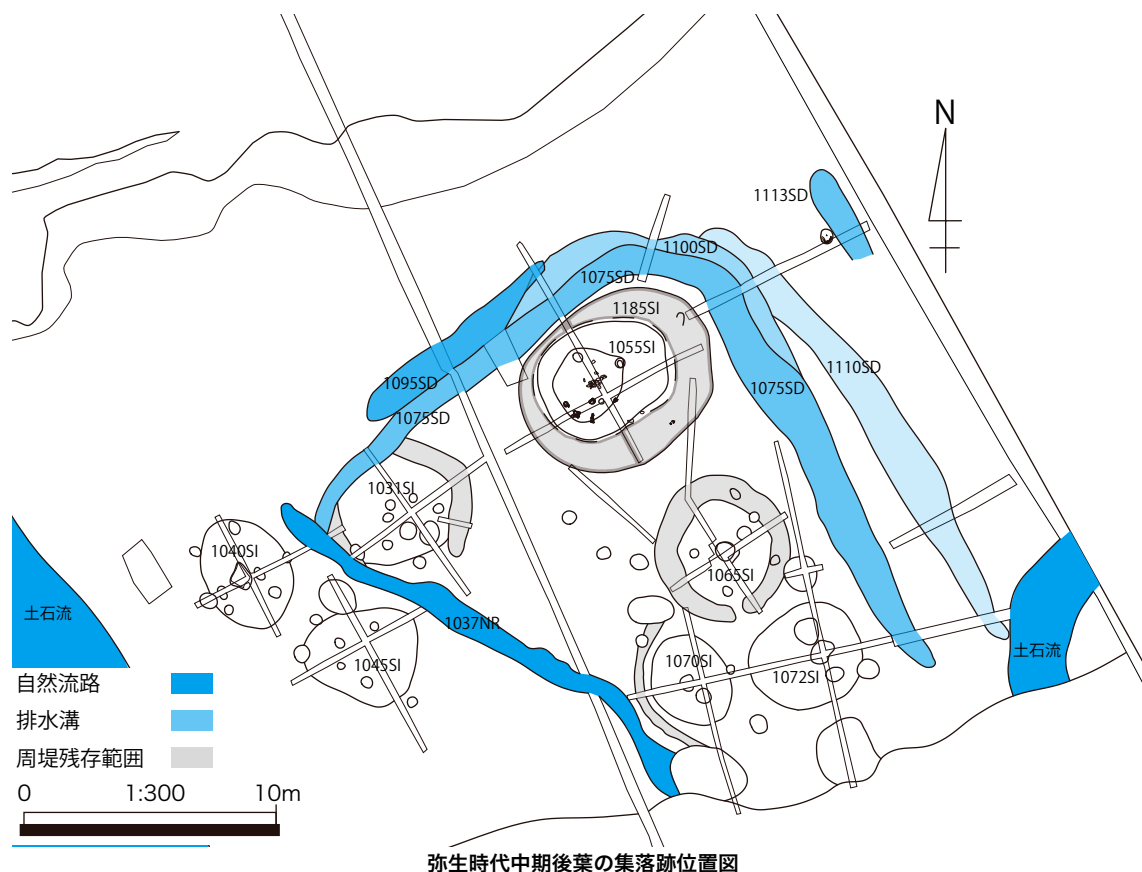
堅穴建物跡では、1031SI と 1065SI では一部<sup>どて</sup>土手状の高まりが検出され、1055SI からは、建物の全周を囲う土手状の高まりが検出されました。この高まりは、<sup>しゅうてい</sup>周堤といわれる建物跡にともなう構造です。1031SI と 1065SI の周堤は下部では浅い溝状に凹みました。これが、構築の手法によるものなのか、土圧による影響なのかは不明ですが、1055SI にはこのような凹みは認められませんでした。また、1031SI からは、<sup>くだたま</sup>緑色の管玉が 1 点出土しています。

1055SI は、<sup>どせきりゅう</sup>土石流によって覆われていて、特に周堤の遺存状態が良好だったため、全国的にも話題となりました。この堅穴建物跡は、長軸 5.4m 短軸 4.3m 深さ 0.6m の規模で、3 面以上にも渡って床面が更新され、それぞれに伴う地床炉が検出されました。その一番新しい段階の床面からは、弥生時代中期後葉の土器が 5 点ま<sup>なんしん</sup>とまって出土しました（24 頁の 1～5）。特に、5 は長野県に由来のある土器で、南信地域との交流が伺える事例です。また、1 と 2 は、口縁部が逆さまの状態<sup>なんしん</sup>で出土しました。また、これら土器の他にも<sup>せきせいぼうすいしや</sup>石製紡錘車 2 点（25 頁の 6・7）、円盤状の石器 2 点（8・9）、<sup>ませいせきふ</sup>磨製石斧 2 点（10・11）などが出土しました。土器の出土したやや西よりの範囲で、炭化物の集中が認められます。周堤は、数段階に分けて構築されたと考えられ、周堤の下部と上部の中間で弥生土器の甕がま<sup>なんしん</sup>とまって出土し、<sup>しょうど</sup>焼土を含む土坑も検出されました。さらに、この堅穴建物跡に先行する形でもう一回り大きな堅穴建物跡 1285SI も検出されました。

1065SI は、1055SI の次に遺存状態が良好で、周堤と考えられる凸状の高まりが山側の一部に残存していました。これも 1055SI 同様 2 回以上床面を更新しており、それに伴う<sup>じしゅうろ</sup>地床炉が検出されましたが、遺物はあまり出土していません。周堤は土手状の高まりとして認められましたが、その下部は浅い溝状に落ち込みます。また、この堅穴建物跡の下層から、ほぼ重複する位置で、<sup>じょうもん</sup>縄文時代中期後半<sup>ちゅうきこうはん</sup>と考えられる地床炉を伴う堅穴建物跡も検出されました。

今年度の調査では、設楽ダム関連の発掘調査で初めて弥生時代の集落跡が検出され、山間部の弥生時代を考える上で、重要な調査成果となりました。特に、周堤の残る堅穴建物跡と、そこから出土した土器群と紡錘車や磨製石斧などの石器の組み合わせは、その時期を表す一括資料として貴重な事例となりました。それと同時に、堅穴建物跡と溝など集落の構造も把握できる調査事例となりました。（田中 良）









20A区 弥生時代中期後葉の集落跡(上が北)



20A区105SI最新床面検出(南から)



20A区105SI弥生土器出土状況(南西から)

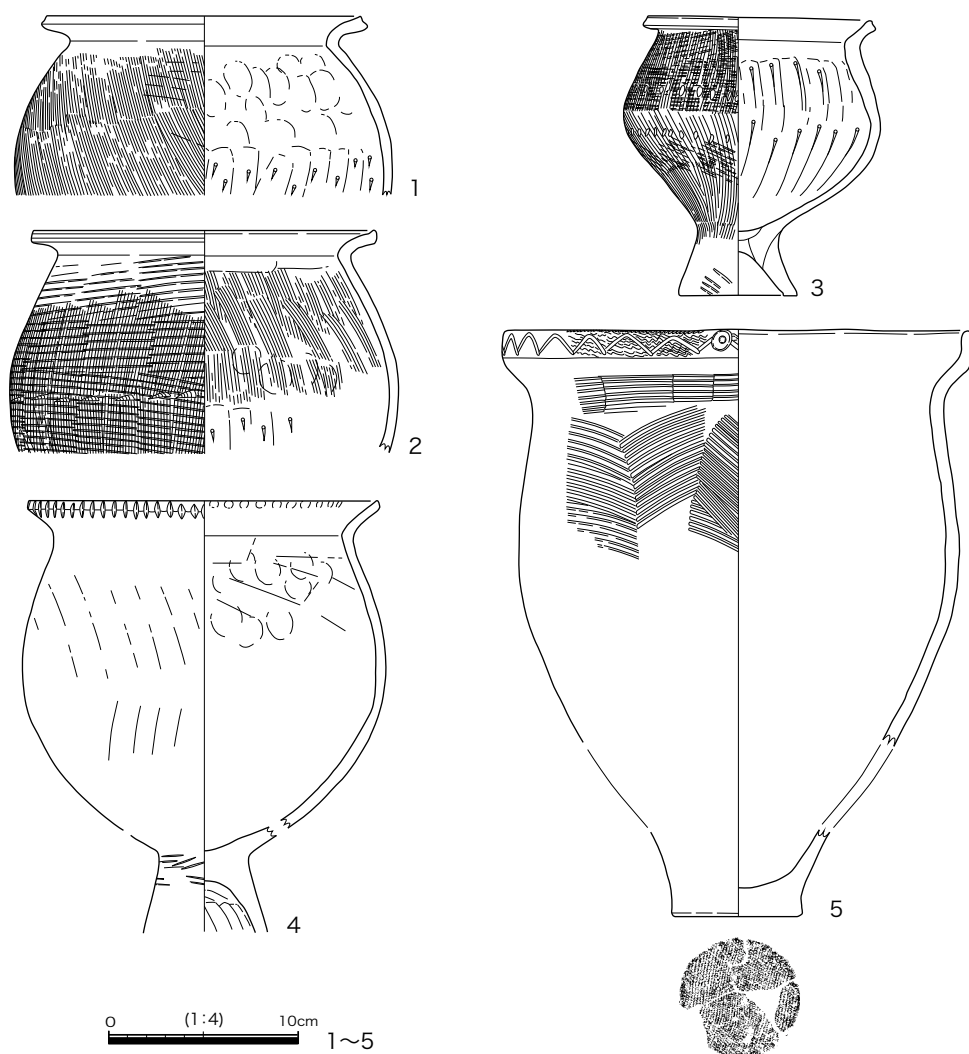


20A区紡錘車出土状況(南から)



20A区106SI完掘状況(南から)



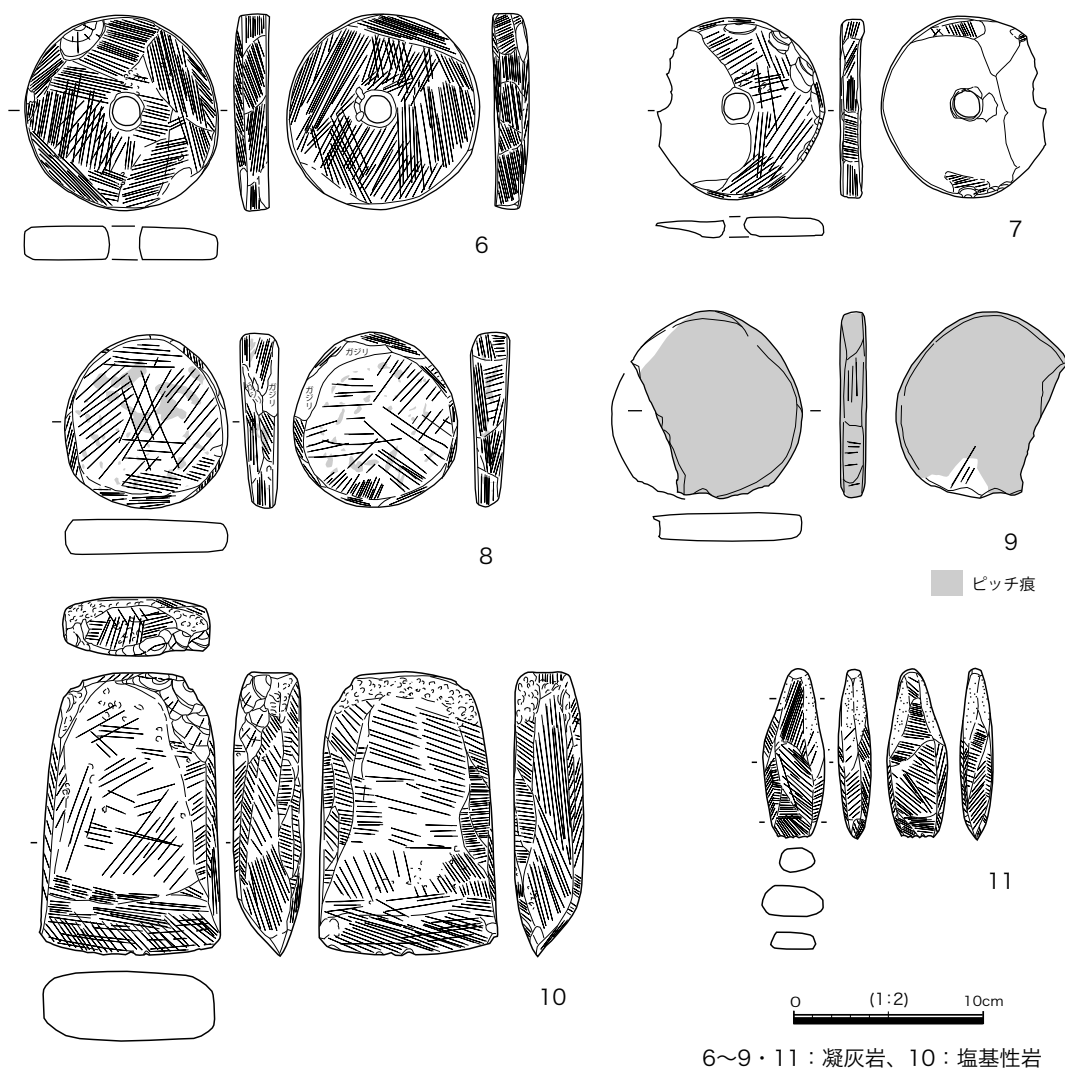


| 図<br>キャプシ<br>ョン番号 | 測定番号<br>遺物取上番号<br>採取部位                 | $\delta^{13}\text{C}$<br>(‰) | 暦年較正年代<br>(yrBP $\pm 1\sigma$ ) | $^{14}\text{C}$ 年代<br>(yrBP $\pm 1\sigma$ ) | $^{14}\text{C}$ 年代を暦年に較正した年代範囲                                                    |                                                              |
|-------------------|----------------------------------------|------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------|
|                   |                                        |                              |                                 |                                             | 1 $\sigma$ 暦年代範囲                                                                  | 2 $\sigma$ 暦年代範囲                                             |
| 1                 | PLD-42507<br>試料No.6<br>d-0956<br>胴部外面  | -25.24 $\pm$ 0.26            | 2048 $\pm$ 17                   | 2050 $\pm$ 15                               | 91-79 cal BC (12.11%)<br>54-36 cal BC (28.25%)<br>14 cal BC- 5 cal AD<br>(27.91%) | 103-65 cal BC (21.60%)<br>60 cal BC-20 cal AD<br>(73.85%)    |
| 2                 | PLD-42506<br>試料No.5<br>d-0955<br>口縁部外面 | -26.80 $\pm$ 0.27            | 2078 $\pm$ 19                   | 2080 $\pm$ 20                               | 146-140 cal BC ( 4.11%)<br>107- 46 cal BC (64.16%)                                | 161-42 cal BC (93.59%)<br>8- 2 cal BC ( 1.86%)               |
| 3                 | PLD-42503<br>試料No.2<br>d-0952<br>口縁部外面 | -24.41 $\pm$ 0.25            | 2055 $\pm$ 17                   | 2055 $\pm$ 15                               | 94-74 cal BC (24.02%)<br>55-39 cal BC (26.19%)<br>12 cal BC- 3 cal AD<br>(18.05%) | 149-137 cal BC ( 2.09%)<br>110 cal BC- 11 cal AD<br>(93.36%) |
|                   | PLD-42502<br>試料No.1<br>d-0952<br>胴部内面  | -24.81 $\pm$ 0.25            | 2109 $\pm$ 17                   | 2110 $\pm$ 15                               | 161- 99 cal BC (59.35%)<br>68- 58 cal BC ( 8.92%)                                 | 173-52 cal BC (95.45%)                                       |
| 4                 | PLD-42505<br>試料No.4<br>d-0954<br>底部内面  | -25.22 $\pm$ 0.25            | 2058 $\pm$ 17                   | 2060 $\pm$ 15                               | 96-72 cal BC (29.01%)<br>56-40 cal BC (25.06%)<br>11 cal BC- 2 cal AD<br>(14.20%) | 150-134 cal BC ( 3.29%)<br>115 cal BC- 8 cal AD<br>(92.16%)  |
| 5                 | PLD-42504<br>試料No.3<br>d-0953<br>口縁部外面 | -24.82 $\pm$ 0.39            | 2051 $\pm$ 22                   | 2050 $\pm$ 20                               | 96-72 cal BC (20.68%)<br>56-34 cal BC (25.33%)<br>15 cal BC- 6 cal AD<br>(22.27%) | 150-134 cal BC ( 2.94%)<br>115 cal BC- 21 cal AD<br>(92.51%) |

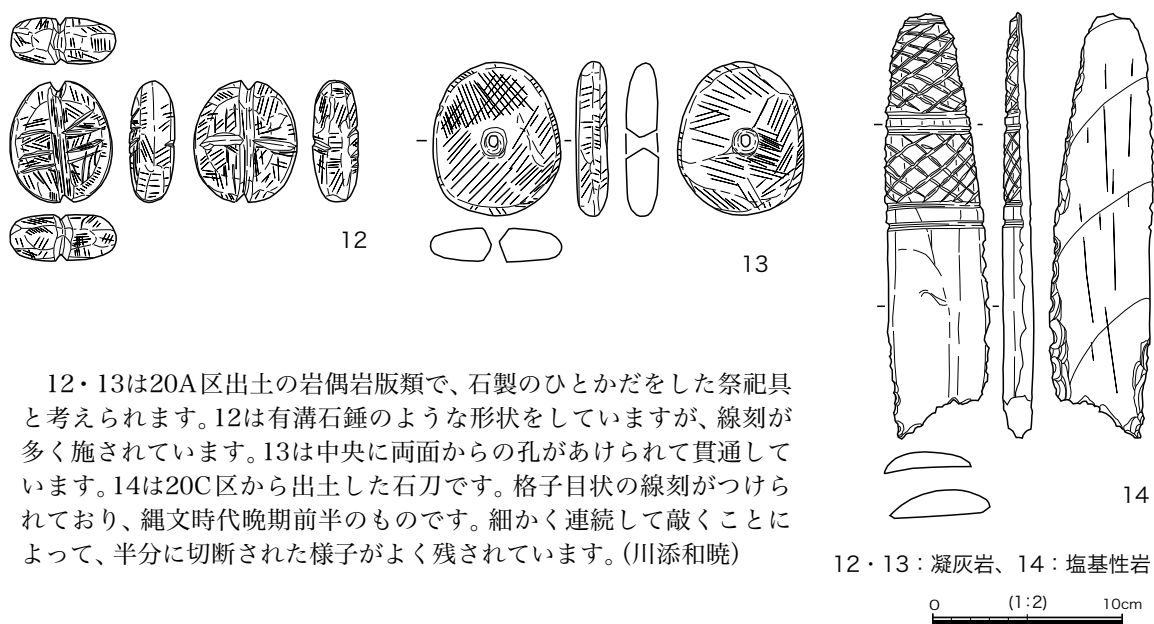
※年代測定分析の結果、B.C.50年（紀元前50年）頃の年代値にまともっているといえそうです。

1055SIから出土した5点の土器（甕）は3つの系統に分かれます。1～3は凹線文系土器で、瀬戸内地方で誕生し、この地域まで伝わってきた土器の仲間です。4のハケ目や文様が少ない土器は、三河地方で生まれた古井式土器です。5の羽状や波状文が施された土器は、信州地方にそのルーツをもつ栗林式土器です。このように系統の異なる土器が同じ住居の中から見つかったことは、土器や人の動き、土器編年、土器の使われ方について多くの知見を私たちに与えてくれます。（宮腰健司）

1055SI出土土器と付着炭化物放射性炭素年代測定値【放射性炭素年代測定は（株）パレオ・ラボによる】



1055SI出土石器



12・13は20A区出土の岩偶岩版類で、石製のひとかだをした祭祀具と考えられます。12は有溝石錘のような形状をしています、線刻が多く施されています。13は中央に両面からの孔があげられて貫通しています。14は20C区から出土した石刀です。格子目状の線刻がつけられており、縄文時代晩期前半のものです。細かく連続して敲くことによって、半分に切断された様子がよく残されています。(川添和暁)

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡出土縄文時代石製品



## 縄文時代

### ○後期末から晩期

弥生時代中期後葉の集落跡以前の上ヲロウ・下ヲロウ遺跡では、縄文時代後期末～晩期（弥生時代前期含む）と、縄文時代中期後半～後期前葉の遺構群が展開します。縄文時代後期末～晩期は2019年度調査区と20A区、山側の20C区でも確認され、広い範囲で活動の痕跡が認められます。遺構は、2019年度調査区の石囲炉を伴う竪穴状遺構のほか、20A区の突帯文土器（五貫森式古段階）を棺身とする土器棺墓、後期末の土器埋設遺構も認められます。これらは黒色土の遺物包含層中で形成されていました。

○後期前葉 山側の20C区と川側の20A区に集落が展開します。

### 20C区（29頁詳細図）

20C区の調査区北東側では、縄文時代後期前葉を主体とする集落跡が検出されました。集落は竪穴建物跡と貯蔵穴と思われる土坑群、さらには柱穴列によって構成されています。この集落跡は、南西方向に向かって傾斜する斜面の鞍部で展開しています。

竪穴建物跡2703SIは隅丸方形を呈するプランで、中央に地床炉が検出されました。この建物跡に先行する同様の落ち込みが最低2箇所確認することができるため、同じ場所に繰り返し建てられた竪穴建物跡の可能性が高いです。その竪穴建物跡に隣接する位置で検出された、2740SIは上層に大型の角礫が大量に廃棄されていたものです。掘り方底面で炉跡が検出されました。埋土掘削過程で、炉の見つかった遺構中央で、側面立ちする焼けた板石が存在していたことから、石囲炉が設けられていたものと考えられます。

### 20A区（30頁詳細図）

20A区の南側でも、縄文時代後期前葉を主体とする集落跡が検出されています。20C区で検出された集落跡とは、やや構成が異なり、竪穴建物跡と配石遺構群、大型土坑、土器埋設遺構からなります。竪穴建物跡1449SIと1450SIは、配石遺構の下層から検出されたことから、竪穴建物跡が廃絶したのち、黒色土の形成途中で配石遺構群が構築されていることが分かりました。また、1449SIからは、土器が何重にも重ねて設けられた土器埋納炉が検出されています。その西側では大型土坑群が展開しています。これらのなかには、浅く焼土もないが、焼けた石を含む配石を確認できる土坑もあります。土器埋設遺構は、立位のものが多いですが、北東の土器埋設遺構（1300SZ）は横位で検出されました。

配石遺構は、調査区東側、特に弥生時代の竪穴建物跡1055SIの周堤があった部分では、残りが良好でした。同じく弥生時代の竪穴建物跡1065SIがあった周辺でも礫が点在し、礫の集中部を検出できることから、本来は東側一帯に配石遺構群が展開しており、弥生時代の集落形成によって一部攪乱された可能性があります。礫は角礫から亜角礫を主体としますが、大きさは多種多様で、統一性は感じられません。また、石核・原石と考えられる安山岩や磨石などが少量含まれます。

以上のことから、20A区で検出された集落跡は、竪穴建物跡の居住域と配石遺構や大型土坑、土器埋設遺構による埋葬・祭祀の場としての様相が、密接した形でおこなわれている



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡全体図 (縄文時代中期～後期中心)



たことを表す事例だと考えられます。

### ○中期後半

縄文時代中期後半<sup>ちゅうきこうはん</sup>では、石囲炉を伴う竪穴建物跡3棟、地床炉を伴う竪穴建物跡3棟が検出されました。石囲炉を伴う竪穴建物跡は、1152SI・1154SI・1420SIの3棟です。その中でも、1152SIの石囲炉は、側面だけでなく底面にも平たい石が敷かれ、炉の内側には大型の土器片が敷き詰められていました。さらに、底面では少量の焼土と、埋土を何回か掘り返した状態が確認されました。このことから、石囲炉として使用しなくなった段階に、土器を敷き詰めたものと考えられます。1420SIの石囲炉は、1154SIの石囲炉に壊されていたため、同じ場所に作り直されたと考えられます。

地床炉を伴う竪穴建物跡は、1193SI・1270SI・1350SIの3棟です。1270SIと1350SIは重複しており、1350SIが作られたのち、一回り大きな1270SIに作り直されたと考えられます。また、1270SI上層には、弥生時代の竪穴建物跡1065SIが検出された場所でもあり、この場所が長い時代を経ても、よほどの好立地だったことが伺えます。

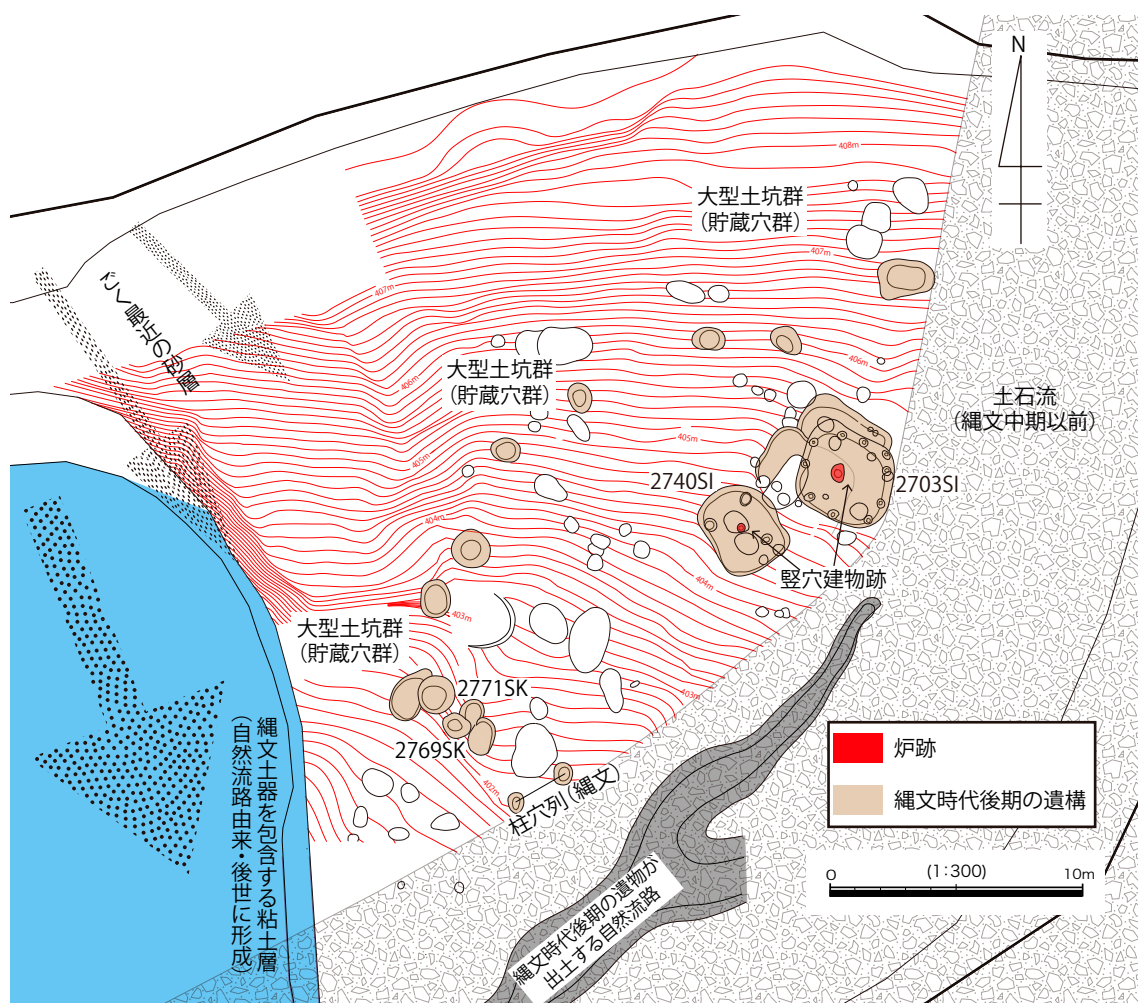
### ○中期中葉

上ヲロウ・下ヲロウ遺跡で、人が住むようになったのは、縄文時代中期中葉<sup>ちゅうきちゅうよう</sup>からでした。竪穴建物跡1112SIは、地床炉を伴う竪穴建物跡です。中期中葉<sup>ちゅうきちゅうよう</sup>の北屋敷式<sup>きたやしき</sup>の土器片や剥片<sup>はくへん</sup>、台石<sup>だいし</sup>などが出土しています。また、地床炉が検出された高さよりも掘り方が深くなるため、建て直しがおこなわれた可能性があります。(田中 良)

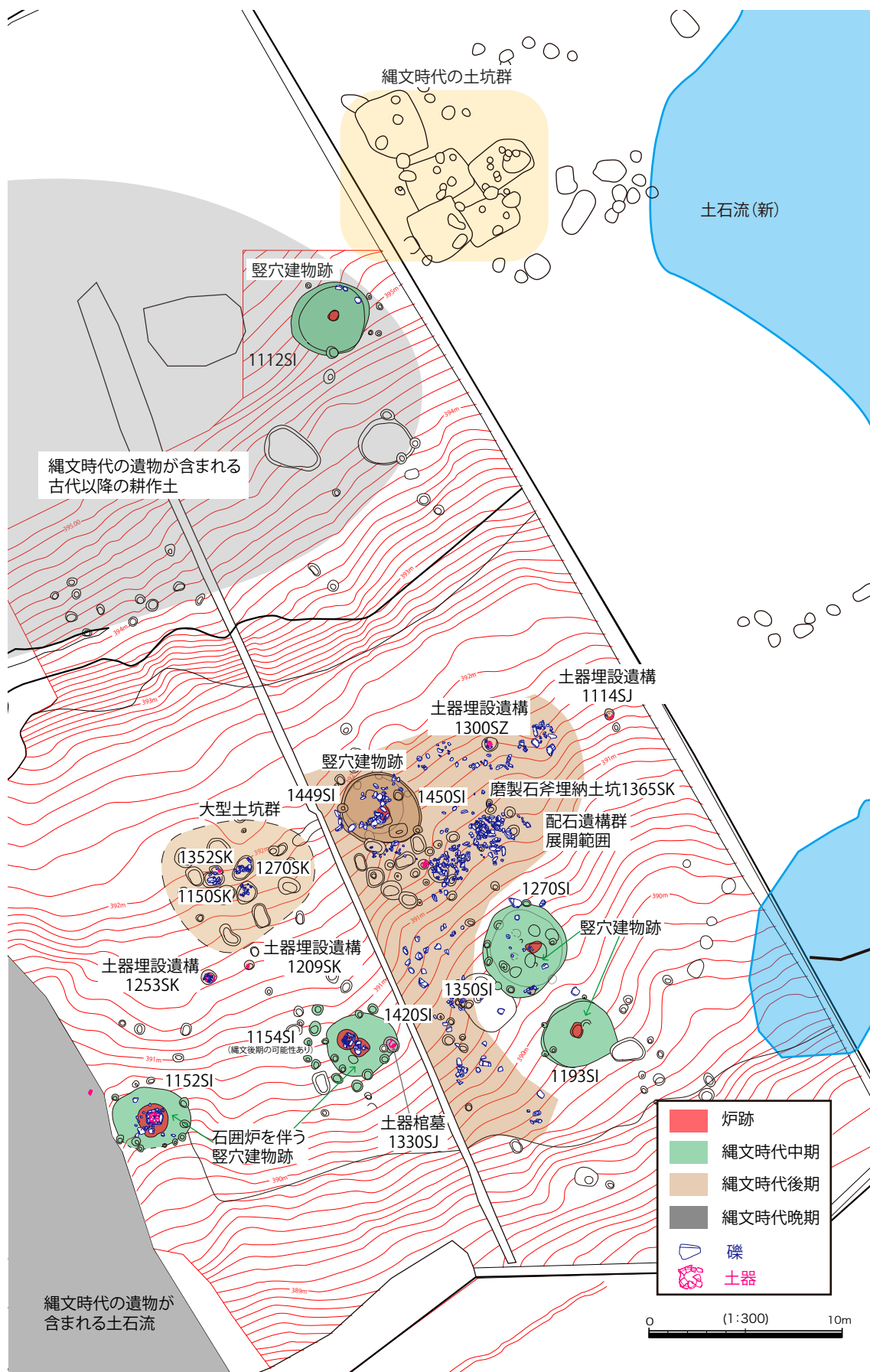


20C区下面(縄文時代) 全景(南東より)









20A区 縄文時代の遺構位置図





20A区 縄文時代の遺構 (東から)



20A区晩期の土器棺墓1330SJ(南西から)



20A区後期の配石遺構群(南西から)



20A区後期の竪穴建物跡1449SI (南から)



20A区中期の竪穴建物跡1152SI(南から)



| 年代      | 時代      | 主なできごと                                                                                                                      | 愛知県の遺跡                                                                                      | 胡桃窪遺跡 | 添沢遺跡 | 下延沢遺跡 | 上ヲロウ・下ヲロウ遺跡 |
|---------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|-------|-------------|
| 3500年前  | 後期旧石器時代 | 台形様石器・ナイフ形石器・局部磨製石斧の出現                                                                                                      | 上品野遺跡（瀬戸市）                                                                                  |       |      |       |             |
| 3000年前  |         | 鹿兒島県始良カルテラ（A.T.）の降灰                                                                                                         | 茶白山遺跡（豊根村）<br>駒場遺跡（豊川市）                                                                     |       |      |       |             |
| 2500年前  | 草創期     | 土器の発明・弓矢の使用<br>氷河期が終わる                                                                                                      | 萩平遺跡（新城市）<br>川向東貝津遺跡（設楽町）<br>滝瀬遺跡・大栗遺跡（設楽町）<br>多利畑遺跡（豊橋市）<br>大安寺遺跡（豊田市）<br>鞍馬遺跡（設楽町）        |       |      |       |             |
| 6000年前  | 早期      | 貝塚の形成<br>気候の温暖化による海進                                                                                                        | 大根平遺跡（設楽町）<br>西地・東地遺跡（設楽町）<br>モリ下遺跡（新城市）                                                    |       |      |       |             |
| 5000年前  | 中期      | 寒冷化し、海退した低地にも生活を始める                                                                                                         | 石岸遺跡（新城市）<br>笹平遺跡（設楽町）<br>大名倉遺跡（設楽町）<br>古胡貝塚（田原市）<br>宮嶋遺跡（豊根村）<br>麻生田大橋遺跡（豊川市）<br>桜平遺跡（東栄町） |       |      |       |             |
| 4000年前  | 後期      | 抜歯風習の盛行                                                                                                                     | 白石遺跡（豊橋市）<br>瓜郷遺跡（豊橋市）<br>西向遺跡（東栄町）<br>欠山遺跡（豊川市）<br>馬越長火塚古墳（豊橋市）<br>屋木下古墳（設楽町）<br>丸根古墳（設楽町） |       |      |       |             |
| 3000年前  | 弥生時代    | 土器棺墓群が形成される<br>稲作の開始<br>環濠集落の出現<br>金属器の使用・銅鐸の使用<br>女王卑弥呼邪馬台国を統治する<br>大和政権の出現・各地に古墳の造営<br>仏教の伝来                              | 三河国分寺跡（豊川市）<br>白鳥遺跡（豊川市）                                                                    |       |      |       |             |
| 2500年前  |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| A.D. 1年 |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 7000年   | 飛鳥時代    | 平城京遷都<br>743年 東大寺大仏建立の詔・国分寺<br>794年 平安京遷都                                                                                   |                                                                                             |       |      |       |             |
| 6000年   | 古墳時代    |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 3000年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 8000年   | 奈良時代    |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 9000年   | 平安時代    | 藤原氏の摂関政治<br>武士の台頭<br>1192年 源頼朝鎌倉幕府を開く<br>元寇（文永・弘安の役）<br>1338年 足利尊氏室町幕府を開く<br>1467年 応仁の乱<br>1575年 長篠の戦い<br>1603年 徳川家康江戸幕府を開く | 大根平遺跡（設楽町）<br>普門寺跡（豊橋市）<br>フヤキ窯跡（東栄町）<br>武節城址（豊田市）<br>田家城址（設楽町）<br>津具城址（設楽町）<br>吉田城跡（豊橋市）   |       |      |       |             |
| 1600年   | 室町時代    |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1500年   | 戦国期     |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1400年   | 鎌倉時代    |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1300年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1200年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1100年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1000年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 江戸時代    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1800年   | 安土桃山時代  |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1700年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1600年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1500年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1400年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1300年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1200年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1100年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 1000年   |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 900年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 800年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 700年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 600年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 500年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 400年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 300年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 200年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 100年    |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 0年      |         |                                                                                                                             |                                                                                             |       |      |       |             |
| 2000年   | 近代・現代   | 1867年 大政奉還<br>1945年 太平洋戦争終結                                                                                                 |                                                                                             |       |      |       |             |



上ヲロウ・下ヲロウ遺跡1055SI出土弥生土器集合写真

令和2年度  
設楽ダム関連発掘調査成果報告会

新設楽発見伝7 配付資料

編集・発行

令和3年3月6日 発行



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

企画担当・編集

鈴木正貴・堀木真美子・川添和暁

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24

電話 (0567) 67-4163 【調査課】

HP <http://www.maibun.com>

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter [https://twitter.com/aichi\\_maibun](https://twitter.com/aichi_maibun)